

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成19年4月12日(2007.4.12)

【公開番号】特開2004-308903(P2004-308903A)

【公開日】平成16年11月4日(2004.11.4)

【年通号数】公開・登録公報2004-043

【出願番号】特願2004-90232(P2004-90232)

【国際特許分類】

F 16 D 27/00 (2006.01)

【F I】

F 16 D 27/00

【手続補正書】

【提出日】平成19年2月27日(2007.2.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

図2から分かるように、クランプジョーは、その外側の脚部分に設けられていて互いに係合している歯列13によって互いに結合されていて、その結果内側のクランプジョー10bは軸方向においてほぼ軸4に沿って摺動可能でかつこれにより外側のクランプジョー10aに対して接近・離反運動可能である。内側のクランプジョー10bの係合ポジションにおいて、第2のクラッチ部分3は該クラッチ部分と外側のクランプジョー10aとの間ににおいて、クラッチ部分2,3を貫通する磁束により生ぜしめられたクランプ力によって緊締されている。このクランプ力は、クランプジョー10a,10bがスリップなしに互いに摩擦係合するように、設定されている。遮断ポジションにおいては、両クラッチ部分2,3は相対的に回転可能である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

磁束は永久磁石14によって生ぜしめられ、この永久磁石14は、第1のクラッチ部分2の両クランプジョー10a,10bと第2のクラッチ部分3と定置のコア12と、このコア12と第2のクラッチ部分3との間に配置された空隙15とを通る磁気回路に配置されている。定置のコア12と、クラッチ部分2,3の磁束を通す領域とは、軟質磁性の材料から成っている。図1の上半部には、磁束が磁束線16によって示され、流れ方向が矢印によって示されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

図1及び図2から分かるように、第1のクラッチ部分2のクランプジョー10a,10bはそれぞれ保持体25a,25bを有しており、この保持体25a,25bは、例えば

アルミニウムのような非強磁性材料から成っており、保持体 25a, 25b には、互いに間隔をおいて複数の軟質磁性の磁束導体 18a, 18b, 18c が配置されており、これらのうちの磁束導体 18a は、各 1 つの空隙 15 を磁束移行箇所と接続し、磁束導体 18b, 18c は、互いに間隔をおいて位置する磁束移行箇所のうちの、回転軸線 11 に対して半径方向に並んで配置された各 2 つの磁束移行箇所を、ほぼ U 字形に互いに接続している。すなわち図面から明らかなように、磁束導体 18b, 18c の U 字脚の自由端部は、それぞれ第 2 のクラッチ部分 3 に向けられている。磁束導体 18b, 18c はリング状に形成されていて、回転軸線 11 に対してほぼ同心的に、回転軸線 11 に対して横方向に互いに間隔をおいて位置する複数の列で、回転軸線 11 を中心に巻かれている。以上のことすべてによって、流れ方向が交番する右湾曲部と左湾曲部とを有する磁束経過が生ぜしめられ、右に向かって湾曲した磁束導体 18c はそれぞれ一方のクランプジョー 10b に配置され、かつ左に向かって湾曲した磁束導体 18b はそれぞれ他方のクランプジョー 10a に配置されている。磁束導体 18a もまたリング状に形成されていて、回転軸線 11 に対して同心的に配置されている。